

調査意見書

受理番号 107-1		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	217	9 - 10	$f(x)=(x^3+4)-3x^2=x^3-3x^2+4$ とおくと	生徒にとって理解し難い表現である。 (何をどのようにおくのか分からない。)	3-(3)		
2	264	27 右	「思考の戦略編」の問5の解答の「一定の値」	生徒にとって理解し難い表現である。 (何を表しているのか分からない。)	3-(3)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-2		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	7	2 右	$D > 0$	生徒にとって理解し難い記号である。 (説明がないので「D」が何か分からない。)	3-(3)		
2	65	7 - 9 左	①は傾き-1, 切片4の直線 ②は傾き $1/2$, 切片1の直線 であるから	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)		
3	111	6 左	単位円	組織が適切でない。 (この用語の説明は118ページでなされている。)	2-(12)		
4	111	10 - 12 左	単位円の周上で, x座標が $-1/\sqrt{2}$ とな る点は, 下の図の点Pである。	不正確である。 (単位円上で条件を満たす点は第3象限にもある。)	3-(1)		
5	209	9 - 11	$f(x) = (x^3 + 2) - 3x = x^3 - 3x + 2$ とおくと	生徒にとって理解し難い表現である。 (何をどのようにおくのか分からない。)	3-(3)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-3		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
1	7	14	$D > 0$	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないため「D」が何か分からない。)	3-(3)	
2	61	8 - 10	①は傾き-1, 切片4の直線 ②は傾き1/2, 切片1の直線 であるから	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
3	108	4	単位円	組織が適切でない。 (この用語の説明は116ページでなされている。)	2-(12)	
4	108	10 - 11	単位円の周上で, x座標が $-1/\sqrt{2}$ となる点は, 右の図の点Pである。	不正確である。 (単位円上で条件を満たす点は第3象限にもある。)	3-(1)	
5	205	9 - 11	$f(x) = (x^3 + 2) - 3x$ $= x^3 - 3x + 2$ とおくと	生徒にとって理解し難い表現である。 (何をどのようにおくのか分からない。)	3-(3)	
6	242	18 右	「5章 微分と積分 3節 Training … p. 223」の16(2)の解答	誤りである。 (変数)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-7		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
1	93	7	ただし, [Ⅱ]については, 明らかな場合は□確認を省略してもよい。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「□確認」をどのような意味で用いているのか分からない。)	3-(3)	
2	124	21	(nは整数)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 ((2)にのみ適用される条件だと誤解するおそれがある。)	3-(3)	
3	140	1	発展 三角関数の和と積の公式 ▶ 数学Ⅲ	不正確である。 (発展的な学習内容の位置付けとして)	3-(1)	
4	188	20	①が点(2, -7)を通る	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
5	211	1	積分区間	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
6	242	10 左	「P. 171 節末問題」の2. (3)の解答	誤りである。	3-(1)	
7	242	15 右	「P. 174 章末問題B」の12. (3)のヒント	生徒にとって理解し難い問題番号とヒントである。 (174ページに12. (3)という問題はない。)	3-(3)	
8	244	3 左	「P. 230 課題学習」の課題1の11/7の解答	誤りである。 (「 $2+1/3$ 」)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-10		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	表紙	2 - 6	第1節 式と証明・方程式 第2節 図形と方程式 第3節 三角関数 第4節 指数関数と対数関数 第5節 微分と積分	相互に矛盾している。 (本文の章立てに照らして)	3-(1)		
2	20	14 - 17	■6	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (A, Bのどちらが割る式, 割られる式なのか分からず, 解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)		
3	42	4	対称式	生徒にとって理解し難い用語である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)		
4	60	23 - 26	Q2及びQ3	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (立方根記号が未習のため, 解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)		
5	94	側注	10-12行右の側注「逆の確認は省略している。」 他に, 95ページ15-17行右の側注	生徒にとって理解し難い表現である。 (「確認」をどのような意味で用いているのか分からない。)	3-(3)		
6	145	1	発展 数学III	不正確である。 (発展的な学習内容の位置付けとして)	3-(1)		
7	245	13 左	「第5章 微分と積分 第1節 節末問題 (190ページ)」の■7の解答	不正確である。 (設問に答えていない。)	3-(1)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調 査 意 見 書

受理番号 107-11		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
1	6	3 左	□1 3次の乗法公式……10	相互に矛盾している。 (10ページの□1の表題と異なる。)	3-(1)	
2	26	9	両辺の式の値が存在する限り他に、10-11行	生徒にとって理解し難い表現である。 (等式②においてこの条件を付ける必要性が分からない。)	3-(3)	
3	39	23	◀ p. 27	生徒にとって理解し難いページ番号である。 (27ページの学習内容との関係が分からない。)	3-(3)	
4	64	20 - 21	ω と共役な複素数を ω^{\wedge} とすると	生徒にとって理解し難い表現である。 (共役複素数の表し方は既に48ページで学んでいる。)	3-(3)	
5	86	22	以上のことをまとめると、次のことが成り立つ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (10-21行では原点を通る直線について説明しているのに、なぜ23-26行では一般の直線についてのまとめになっているのか分からない。)	3-(3)	
6	90	1	前ページのQより、一般に、次のことがいえる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (前ページでは特定の直線について説明しているのに、なぜ一般の直線についていえるのか分からない。)	3-(3)	
7	105	側注	23-26行右の側注における「→ p. 114 確認問題⑥」	生徒にとって理解し難いページ番号である。 (114ページ確認問題⑥は、107ページの学習内容を利用する問題である。)	3-(3)	
8	118	9 - 10	方程式 $x = \square(\text{ア})$ 上にいる人	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
9	138	側注	8-9行右の側注における「 $y = \tan k\theta$ の漸近線」	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
10	157	1	発展 数学Ⅲ	不正確である。 (発展的な学習内容の位置付けとして)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-11		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
11	161	図	中央の半径30の円の図	不正確である。 (2-3行の図の説明に照らして)	3-(1)	
12	198	4	xの値を決めると微分係数の値が定まる	生徒にとって理解し難い表現である。 (12行の説明に照らして)	3-(3)	
13	201	4	$-(4)'$	誤りである。	3-(1)	
14	230	1 - 2	対称なグラフは $y=-f(x)$ である。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
15	231	3	2つのグラフ $y=f(x)$, $y=g(x)$ 他に, 12-13行, 22行	生徒にとって理解し難い表現である。 (「グラフ $y=f(x)$ 」という表現)	3-(3)	
16	240	10	第2節 円と直線 他に, 269ページ右段11行	相互に矛盾している。 (93ページにおける第3章第2節の表題と異なる。)	3-(1)	
17	240	13	第1節 一般角の三角関数 他に, 249ページ2行, 270ページ右段2行	相互に矛盾している。 (122ページにおける第4章第1節の表題と異なる。)	3-(1)	
18	251	18	問1	学習上の支障を生ずるおそれがある。 ((エ)に解答することができないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
19	252	20 - 21	問2	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2次元コード先の内容を参照しなければ解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)	
20	256	17 左	「第1節 確認問題 25ページ」の⑦(1)の解答	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-11		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定			
	ページ	行							
21	256	30 左	「第2節 確認問題 39ページ」の④(1)の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (④(2)の解答の示し方と比較して)	3-(3)				
22	256	3 右	「章末問題 40～41ページ」のAの□1(1)の解答	誤りである。	3-(1)				
23	258	5 左	「章末問題 70～71ページ」のAの□2の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (何の解答か分からない。)	3-(3)				
24	258	4 右	「探Q広場(課題研究) 72～73ページ」のQ3の解答	不正確である。 (「左辺は負」)	3-(1)				
25	260	7 - 8 左	「章末問題 116～117ページ」のAの□2(2)のヒント	生徒にとって理解し難い記号である。 (「P'」の説明がないので分からない。)	3-(3)				
26	260	14 - 15 左	「章末問題 116～117ページ」のAの□5(2)のヒント	生徒にとって理解し難いヒントである。 (既に(1)で行っていることである。)	3-(3)				
27	264	26 - 27 左	「第2節 確認問題 187ページ」の④(2)(4)のヒント	生徒にとって理解し難いヒントである。 (設問に対応していない。)	3-(3)				
28	264	5 右	「章末問題 188～189ページ」のAの□2(1)の解答	誤りである。	3-(1)				
29	266	21 左	「第2節 確認問題 218ページ」の③の解答	不正確である。 (設問に答えていない。)	3-(1)				
30	266	11 右	「第3節 確認問題 234ページ」の③の解答	不正確である。 (設問に答えていない。)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-11		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
31	267	24 - 29 左	「章末問題 236～237ページ」のBの□7の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (解答の「a」が何か分からない。)	3-(3)	
32	270	6 左	「第3節 軌跡と領域」の問2の解答における「境界線を含む。」	誤りである。	3-(1)	
33	270	10 右	「第2節 三角関数の加法定理」の問1(オ)の解答	不正確である。 (空欄に当てはめる式表示として)	3-(1)	
34	271	7 左	「第1節 指数と指数関数」の問2の解答	不正確である。 (設問に答えていない。)	3-(1)	
35	271	5 右	「第1節 微分係数と導関数」の問1(ウ)の解答	不正確である。 (空欄に当てはめる式表示として)	3-(1)	
36	279	囲み	「第1章 式と証明」の囲みの「3次の乗法公式と因数分解 10～11ページ」の説明における「 $(a+b)^3=a^3+3ab^2+b^3$ 」, 「 $(a-b)^3=a^3-3a^2b-b^2$ 」	誤りである。	3-(1)	
37	279	囲み	「第1章 式と証明」の囲みの「二項定理 14ページ」	誤りである。 (右辺の第1項)	3-(1)	
38	279	囲み	「第2章 複素数と方程式」の囲みにおける「剰余の定理と因数定理 60ページ」	生徒にとって理解し難い表題である。 (ここでは因数定理は扱われていない。)	3-(3)	
39	280	囲み	「第3章 図形と方程式」の囲みにおける「点と直線の距離 90ページ」	誤りである。 (「 x_1 」)	3-(1)	
40	280	囲み	「第3章 図形と方程式」の囲みにおける「 $(x-a)^2+(y-b)^2<r^2$, $(x-a)^2+(y-b)^2>r^2$ の表す領域 110ページ」の図	生徒にとって理解し難い図である。 (「内部」と「外部」に対応する不等式がどれか分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-12		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
1	24	9	両辺の式の値が存在する限り他に、10-11行	生徒にとって理解し難い表現である。 (等式②においてこの条件を付ける必要性が分からない。)	3-(3)	
2	37	20	◀p. 25	生徒にとって理解し難いページ番号である。 (25ページの学習内容との関係が分からない。)	3-(3)	
3	62	20 - 21	ω と共役な複素数を ω^{\wedge} -とすると	生徒にとって理解し難い表現である。 (共役複素数の表し方は既に46ページで学んでいる。)	3-(3)	
4	84	22	以上のことをまとめると、次のことが成り立つ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (10-21行では原点を通る直線について説明しているのに、なぜ23-26行では一般の直線についてのまとめになっているのか分からない。)	3-(3)	
5	88	1	前ページの「?考えてみよう」より、一般に、次のことがいえる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (前ページでは特定の直線について説明しているのに、なぜ一般の直線についていえるのか分からない。)	3-(3)	
6	116	13 - 14	方程式 $x=\square(\text{ア})$ 上にいる人	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
7	155	1	発展【数学III】	不正確である。 (発展的な学習内容の位置づけとして)	3-(1)	
8	159	図	中央の半径30の円の図	不正確である。 (3行の図の説明に照らして)	3-(1)	
9	196	4	xの値を決めると微分係数の値が決まる	生徒にとって理解し難い表現である。 (12行の説明に照らして)	3-(3)	
10	228	1 - 2	対称なグラフは $y=-f(x)$ である。	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-12		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
11	229	3	2つのグラフ $y=f(x)$, $y=g(x)$ 他に, 12-13行, 22行	生徒にとって理解し難い表現である。 (「グラフ $y=f(x)$ 」という表現)	3-(3)	
12	238	17 左	「第1章 式と証明 第1節 節末問題(23 ページ)」の■7(1)の解答	誤りである。	3-(1)	
13	238	32 左	「第1章 式と証明 第1節 節末問題(37 ページ)」の■4(1)の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (■4(2)の解答の示し方と比較して)	3-(3)	
14	238	8 右	「第1章 式と証明 章末問題(38~39ペ ージ)のA1(1)の解答	誤りである。	3-(1)	
15	239	18 右	「第2章 複素数と方程式 章末問題(68 ~69ページ)」のA2の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (何の解答か分からない。)	3-(3)	
16	240	21 左	「第2章 複素数と方程式 Math Adventure (70~71ページ)」の■Q3の 解答	不正確である。 (「左辺は負」)	3-(1)	
17	241	4 - 5 右	「第3章 図形と方程式 章末問題(114 ~115ページ)」のA2のヒント	生徒にとって理解し難い記号である。 (「P」の説明がないので分からない。)	3-(3)	
18	241	12 - 13 右	「第3章 図形と方程式 章末問題(114 ~115ページ)」の5(2)のヒント	生徒にとって理解し難いヒントである。 (すでに(1)で行っていることである。)	3-(3)	
19	244	10 - 13 右	「第5章 指数関数と対数関数 第2節 節末問題(185ページ)」の■4(2)(4)の ヒント	生徒にとって理解し難いヒントである。 (設問に対応していない。)	3-(3)	
20	244	23 右	「第5章 指数関数と対数関数 章末問題 (186~187ページ)」のA2(1)の解答	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-12		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
21	246	4 左	「第6章 微分と積分 第2節 節末問題 (216ページ)」の■3の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (設問に答えていない。)	3-(3)	
22	246	22 左	「第6章 微分と積分 第3節 節末問題 (232ページ)」の■3の解答	不正確である。 (設問に答えていない。)	3-(1)	
23	246	24 - 29 右	「第6章 微分と積分 章末問題(234～235ページ)」のB7の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (解答に「a」の説明がなく分からない。)	3-(3)	
24	255	囲み	「1. 式と証明」の囲みの「3次の乗法公式と因数分解 ▶p. 8～9」の説明における「 $(a+b)^3=a^3+3ab^2+b^3$ 」, 「 $(a-b)^3=a^3-3a^2b-b^3$ 」	誤りである。	3-(1)	
25	255	囲み	「1. 式と証明」の囲みの「二項定理 ▶p. 12」	誤りである。 (右辺の第1項)	3-(1)	
26	255	囲み	「2. 複素数と方程式」の囲みの「剰余の定理と因数定理 ▶p. 58」	生徒にとって理解し難い表現である。 (ここでは因数定理は扱われていない。)	3-(3)	
27	256	囲み	「3. 図形と方程式」の囲みの「点と直線の距離 ▶p. 88」	誤りである。 (「x_1」)	3-(1)	
28	256	図	「3. 図形と方程式」の囲みの「 $(x-a)^2+(y-b)^2<r^2$, $(x-a)^2+(y-b)^2>r^2$ の表す領域 ▶p. 108」の図	生徒にとって理解し難い図である。 (「内部」と「外部」に対応する不等式がどれか分からない。)	3-(3)	
29	256	囲み	「4. 三角関数」の囲みの「ラジアンと度の換算 ▶p. 122」	誤りである。 (1ラジアンの値)	3-(1)	
30	II	囲み	「5. 指数関数と対数関数」の囲みの「指数 ▶p. 162, 166」	生徒にとって理解し難い表現である。 ($n\sqrt{a}$, r が何か分からない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-13		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定			
	ページ	行							
1	41	表	表の中段左の項目「二次関数のグラフとx軸との共有点の個数」	生徒にとって理解し難い項目である。 (右の図との対応)	3-(3)				
2	62	17	注▶	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)				
3	95	6 - 8	□2	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)				
4	111	4 - 5	グラフを、y軸方向に2倍に拡大したものの他に、10-11行「グラフをθ軸方向に1/2倍に縮小したもの」	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)				
5	156	19 - 21	注▶	誤りである。 (nの使い方)	3-(1)				
6	199	11 - 14	Q	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (長さについての条件が不足しているため、解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)				
7	201	19	三角関数と加法定理 ← p.117	相互に矛盾している。 (117ページの表題と異なる。)	3-(1)				
8	210	21 右	「●2 複素数と方程式 (200ページ)」の3の解答	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ「P(X)」なのか分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-14		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
1	71	19	「領域」	生徒にとって理解し難い表現である。 (同行にある「」無しの“領域”との使い分けが分からない。)	3-(3)	
2	106	16	③が点(0, 3)を通るとすると	不正確である。 (式と図形を混同している。)	3-(1)	
3	248	7	[2] が最終的に導きたい公式である。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([2]は手順)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-16		学校 高等学校		教科 数学		種目 数学Ⅱ		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定			
	ページ	行							
1	前1	5	(→p. 245 課題学習2)	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ「課題学習2」が始まる244ページを除くのか分からない。)	3-(3)				
2	前2	8	(→p. 249 課題学習4)	誤りである。 (249ページに課題学習4はない。)	3-(1)				
3	201	5	198ページの例10	誤りである。 (198ページには例10はない。)	3-(1)				
4	205	側注	7～8行右の側注の「234, 235ページ 言い換える」	誤りである。 (235ページは「言い換える」を扱っていない。)	3-(1)				
5	232	7	[2] が最終的に導きたい公式である。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([2]は手順)	3-(3)				
6	261	10	微分の記号 dy/dx ほか同行「積分の記号 $\int f(x)dx$ 」20行 、「積分の記号 $\int f(x)dx$ 」	不正確である。 (使い方として)	3-(1)				
7	261	16	208ページの14, 15行目は次のような 意味である。	生徒にとって理解し難い行番号である。 (「 $F(x)+$ 定数」の形を扱っているのは16行目)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-18		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定
	ページ	行				
1	123	10	グラフをy軸方向に2倍したもの 他に、124ページ9行「グラフをθ軸方向に1/2倍したもの」、239ページ左段25行「y軸方向に1/2倍」	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)	
2	175	図	4-8行右の図における縦軸の目盛り	誤りである。 (「9/2」, 「1/2」)	3-(1)	
3	226 - 227		課題学習5 (全体)	発展的な学習内容であることが明示されていない。 (5ページの凡例に示されたマークと異なるため。)	2-(17)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-19		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学Ⅱ	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	60	16 - 17	これは 傾きが2, 切片が1の直線 だと分かります。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「これは」が何を意味するのか分からない。)	3-(3)		
2	116	側注	4-5行右の側注における「グラフを, θ 軸の方向に2倍に拡大します。」	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)		
3	135	16	③を, y軸の方向に約1.4427倍に拡大	不正確である。 (何を基準にしているのか分からない。)	3-(1)		
4	183	囲み	18-20行右の囲み「 $-3 \leq x \leq 3$ では, 放物線はx軸の下側にあります。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (182ページ20行の説明との違いが分からない。)	3-(3)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

